

単元名 「朗読を通して文学作品を味わおう。」
 教材名 「大人になれなかった弟たちに……」

一 指導事項

第一学年 C読むこと オ

文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。

言語事項（1）

ア 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意すること。

二 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読むこと	ウ 言語についての知識・理解・技能
<p>① 音読・朗読を通して、作品に関心をもち、級友と協力して読もうとしている。</p>	<p>① 朗読の工夫を通して、人物や気持ちに迫っている。 ② 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くする。</p>	<p>① 話す速度や音量・言葉の調子や間の取り方に注意して読もうとする。</p>

三 単元について

○ 本単元の指導事項として、第一学年 C読むこと オ「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること」、言語事項（1）ア「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に注意すること」が位置付けられる。本単元で行う文学作品を朗読する活動は、朗読の工夫をする過程において人物の気持ちを考え、作者のものの見方を理解し、深い読みが期待できること、自分の見方や考え方をふり返り、色々なものの見方があることに気付いたり、共感したりできると考える。このことは、言語活動動例から見ると、C読むこと の配慮事項 エ（イ）「必要に応じて音読や朗読をすること」を具体化したものとなっている。

○ 生徒は、一学期より、「野原はうたう」の朗読会をはじめ、どの教材でも班での音読と全員音読を経験している。よって音読への抵抗はなく自主的・積極的である。また、「にじの見える橋」では登場人物の行動に表れた心情や情景描写などに注目して読むことを楽しんで行い、説明文「ちよつと立ちどまって」においては、様々なものの見方があることに気付いた。しかし、文章の表面上の理解にとどまり、作者の心情や思いを理解したり共感したりすることは苦手である。文章の表現や級友の発表について共感したり意見をもったりすることにも課題がある。また、自分がどのように人物やものごとを見ているかを客観的に考えた経験は少ないだろう。

○ 以上の点から、だれもができる音読・朗読を活用して文学作品の読取りを行う。指導にあたっては、まず、ものの見方とはどんなものを体験させる。次に、文章中の人物について、僕のとらえた様子を見つけさせ、人物像や心情について考えを深めさせる。その手段として、朗読を工夫する過程で、主観の見方から、書き手の見方で読取りができるようにさせたい。様々な読み取り方があることに気付いたり、級友の感じ方に共感したりできるように、自分で考える活動と話し合いや発表の活動を取り入れたい。最後に、自分の考えを書く作業を通してものの見方の変容を感じさせたい。

五 本時 平成二十年十月一日（水）五校時 第一学年〇組教室（4 / 6）

1 本時の具体の評価規準・評価方法

読：朗読の工夫を通して、人物像や気持ちに迫っている。
 関：友だちと協力して、朗読の練習をしている。

ワークシート5・6 発表 様相チェック

2 資料等

ワークシート5・6 発表用気持ちカード 手順を書いた用紙

3 本時の指導計画・評価計画

過程	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準	形態	配時
導入	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。 「朗読の工夫をして、人物の気持ちに迫ろう。」 「班で協力して練習しよう」</p>	<p>・前回の学習で朗読の場面を決めていることの確認。</p> <p>・班ごとに必要なワークシートを確認させる。</p>	<p>B 担当する人物の気持ちを発表している。</p>	一斉	5
展開	<p>3 どんな気持ちで読むかを話し合う。</p> <p>・自分の考えた気持ちを発表し、班員の意見を参考にしたり、自分の考えと比べたりする。</p> <p>4 班で朗読の練習をする。 ・場面や人物の気持ちを考え、朗読の工夫について話し合う。</p>	<p>・班員に自分の書いた気持ちをきいてもらうようにさせる。</p> <p>・話し合った結果をワークシート6と発表用気持ちカードに書かせる。</p> <p>・班をまわり、cの生徒が発表できるように声をかける。</p> <p>・練習の手順を説明する。</p>	<p>A 担当する人物の気持ちを発表している。 B 場面や心情を読み取り工夫するところを指摘している。</p> <p>A 場面や心情を読み取り工夫するところを指摘している。 B 班で決めた朗読の工夫を書き込んでいる。</p> <p>A 自分の読みの注意点をシートに加えている。 関：協力して朗読の練習をしている。</p>	班	25
まとめ	<p>5 本時のまとめと次時の予告を聞く。</p> <p>・個人練習をする。 ・読み合わせをする。</p>	<p>①朗読の工夫をし、ワークシート6に書き込む。 ②輪読して確認する。 ③分担する。 ④個人←読み合わせ←微調整</p> <p>・班をまわり、cの生徒に班で決めた工夫を書き込ませ、分担や朗読の助言をする。</p> <p>・意欲と期待感を持たせる。</p>	<p>A 個人←読み合わせ←微調整</p>	一斉	5

四 単元の指導計画・評価計画

第一学年 単元「文学作品を朗読しよう」「大人になれなかった弟たちに……」 6時間

指導事項 1年c読オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。
 言(1)ア 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意すること。

単元の評価規準 ○音読・朗読を通して、作品に関心を持ち、友だちと協力して、読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)

○朗読の工夫をする中で、人物像や心情に迫っている。 ○文章に表れているものの見方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。(読むこと)

○話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して読もうとしている。(言語についての知識・理解・技能)

配時	具体的評価規準 ＜評価の方法＞	学習活動 ＜言語活動＞	指導上の留意点	(関心・意欲・態度)			☆Cの生徒への手だて
				期待する姿	おおむね満足できる状況 【B】	十分満足できる状況 【A】	
1	読：自分の家族や戦争について、自分が思っていることを書いている。 ＜ワークシート1＞	1 自分の家族や戦争について、自分のとらえ方を確認する。 2 学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 作品を読む前に、自分のとらえ方を体験させる。 太平洋戦争中の写真や平和学習でまとめた資料を提示し、参考にさせる。 朗読発表があることを知らせ、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 戦争中の様子を知り、戦争や平和について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族について、書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族や戦争について、考え、文章で書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族のことを自分がどう思っているかを書くように補足する。 一言で言うならという形で書かせる。
2	読：登場人物や当時の生活や家族の状況をとらえている。 ＜教科書チェック＞ ＜ノートチェック＞	1 戦争中であることがわかる言葉に印をつけながら読み、家族の様子や状況、気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークの資料部分を使い、戦時下の生活について、確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦時下の生活がわかる言葉を積極的に、見つけ発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 空襲・防空壕などの語句を見つけ、どんなものかわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦時下の生活がわかる言葉を的確に見つけ、家族の状況や気持ちを想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークの写真や語句を説明したものを使い補足し、理解の手助けとする。

5	<p>読：他の班の人物の心情の とらえ方について考 えている ＜評価表＞ 言：話す速度や音量、言葉 の調子や間の取り方に 注意して読もうとし ている。</p>	<p>1 班で練習をする。 2 発表会をする。 人物の分析を生かした朗 読をしたり、他の班の人物の 気持ちのとらえ方に注意し て聞く 3 評価表を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き方のマナーを確認す る。 ・ 各班に評価を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班員と協力して朗読して いる。 ・ 聞き方のマナーを守り、 関心をもって聞いている。 ・ 評価表を丁寧に書してい る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認した朗読の工夫 に従って読んでいる。 ・ 他の班の朗読を聞いて とらえ方が違うこと がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認した朗読の工夫を 行って読んでいる。 ・ 他の班の朗読を聞いて とらえ方の違いや共感 したところを書いてい る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の班のよかった と思うところを書か せる。
6	<p>読：作者の思いを想像し、 自分のもののとらえ方 の変容を感じている。 ＜ワークシート7＞ 関：文学作品を朗読する学 習を通して作品を深く 味わうこと知り、様々な 意欲をもつ。</p>	<p>1 作者の思いをまとめ、自分 の考えを書くことから、自分 のとらえ方をふり返る。 2 学習をふり返り、感想をも つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次にした家族について のとらえ方のシートを渡し、 比較させる。 ・ 学習全体をふり返り自分の 学習のまとめ、感想を書か せ、今後の課題をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に自分の思ったこ とを書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 違う見方もあること に気づき、自分のとら え方が広がった記述 をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のとらえ方をふり 返ったり、友だちのとら え方や発表を聞いて、自 分のもの見方をさら に、広げていこうとい う意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の感想を書か せる中で、再度家族 について考えさせ、 様々なとらえ方があ ることを知らせる。